



「ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市」を目指して

下野市長 広瀬 寿雄

新年、あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、希望あふれる新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

今年は、合併から14年目を迎えます。この間、市民の皆さまのご支援・ご協力をいただきながら、市政運営に全力で取り組んでまいりました。様々な政策課題を解決しつつ、未来に向けて活力あふれる、魅力あるまちづくりの着実なる前進を図るべく、新年を迎え、決意を新たにしております。

令和時代の幕開けとなった昨年は、全国各地に甚大な被害をもたらした多くの自然災害が発生した年でもありました。被災された皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

特に台風19号は、栃木県内にも深い爪痕を残しました。各地で河川の氾濫や土砂崩れが発生し、下野市におきましても、河川からの越水等により市内各所で道路が冠水したほか、住宅の床上・床下浸水や、農作物にも甚大な被害を受けました。

数十年に一度と言われた「関東・東北豪雨」からわずか4年で、再び数十年に一度の大雨に見舞われ、「想

定外」を想定していかなければならなくなった今日、改めて、予測不能な自然災害のリスクに対する日頃からの防災・減災の取組の重要性を痛感しております。

昨年12月に開局いたしましたコミュニティFM「FM ゆうがお」は、災害などの緊急時には、避難勧告や全国瞬時警報システム（Jアラート）を発信します。このコミュニティFMの開局に合わせ、緊急時には自動で起動し、最大音量で情報が流れる防災ラジオを導入しております。特に、外の様子が分かりにくい夜間や、戸外の音が遮られてしまう強風・大雨の際には、刻一刻と変化する状況の中、最新の情報をお伝えするための有用な手段であると考えております。

市民の皆さまにおかれましては、「まず、自分が無事であること」が最も重要であることを念頭に、避難経路の確認や、水・食料などの備蓄、家の中の安全対策等、ご自身やご家族の安全を守るために備えていただくようお願いいたします。

今後も、消防団や自主防災組織等との連携を強化し、市民の皆さまが安心して暮らせるよう最大限の努力をまいります。

市政におきましては、市の目指す将来像「ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市」を掲げる総合計画の前期基本計画が最終年度を迎えることから、後期基本計画作成に向け、これまでの施策を検証し、市民の皆さまや関係機関のご意見をいただきながら、新しい市政の方向性を示す計画づくりを進めてまいります。

また、人口減少問題は待ったなしの喫緊の課題であることを踏まえ、「第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたします。自治体の活力を維持する「知恵」を絞り、総合計画や総合戦略を着実に実行することにより、東京圏からの移住促進や居住環境の向上に、戦略的に取り組んでまいります。

西坪山工業団地隣接地に造成を計画している産業団地につきましては、今年、県において事業実施が決定され、いよいよ事業が動き出します。新4号国道に隣接した交通アクセス条件の優位性を活かし、新たな雇用の創出と地域経済の活性化を図ってまいりたいと考えております。

このほか、スマートIC整備事業、自治医大駅周辺整

備事業、(仮称)南河内中学校区義務教育学校整備事業、石橋複合施設整備事業、しもつけ風土記の丘資料館の増築など、様々な事業に取り組む中で、過去の成果から引き継ぐべきものを維持しつつ、新たな環境や局面にしっかりと対応し、着実に進めてまいりたいと考えております。

今年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本市におきましても、事前キャンプ地の誘致や、パラリンピックの聖火フェスティバルの開催に向けて取り組んでおります。

本市出身の高藤直寿選手が男子柔道60kg級で銅メダルを獲得されたリオオリンピックから4年。今後も本市から代表選手が輩出されることを期待しております。

結びに、市民の皆さまにとりまして、本年がさらなる躍進の年となりますよう心から祈念申し上げますとともに、今後とも、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげまして、新年の御挨拶とさせていただきます。